



質問者 井上 仁議員

### 国民宿舎や市民病院の未処理欠損金について

**問** 国民宿舎の新たな経営形態の公募に10法人から提案があったと聞かすが、未処理の欠損金はどうするのか。同じく、市民病院の未処理欠損金についても伺う。

**答** 国民宿舎事業会計は、3荘合算の会計であるため、3荘とも売却や廃止になる場合は未処理欠損金のまま会計を閉じることになるが、1荘でも指定管理者制度や業務委託等に移行した場合には、本市で引き続き会計処理をすることになる。

また、市民病院の未処理欠損金については、資本金で相殺処理をして一部は埋めることができるが、今後の経営努力で少しでも欠損金がなくなるよう努めたい。

### 自然観察公園の現況と

### 今後の運営について

**問** 平成5年の開園当時、ふるさと創生事業の成功例として全国に紹介されたが、植物群などの公園の現状はどうか。

**答** 傾斜湿地帯に湿地性のめずらしい植物が群生しており、これらの環境を維持するため、あえて観察園などの整備は行わず自然のままの状態で生育を見守っている。

**問** 尋梅館及び冒険の森の遊具は修理するのか。

**答** 尋梅館については、今後、補修の必要範囲と補修方法を十分検討する。

冒険の森の遊具については、現在、アスレチック遊具の撤去によりタワーザンロープウェイ1基のみとなっているため、尋梅館を含めた自然観察公園全体のバランスを考慮しながら遊具の新設を検討したい。

### 市営住宅(旧朝臣住宅)の跡地利用と管理について

**問** 市営住宅跡地について、一部が山林原野になりつつあるが、跡地の利

用や管理はどうなっているのか。

**答** 住宅跡地については、払い下げの要望があった場合は、売却も考えているが、他の市営住宅跡地では、貸し付けも実施しており、ソーラー発電事業者と契約したところもある。跡地管理については、年1回の除草作業を民間業者に委託しており、その他必要に応じて職員が作業するなど維持管理を行っている。

### 新舞子海岸から岩見漁港に至る地域の津波対策について

**問** 南海トラフ巨大地震を想定した津波対策について伺う。

**答** 兵庫県の発表では最高津波高2・3mを想定しているが、市道釜屋新舞子線の道路高及び岩見漁港の防潮堤天端高、構造とも、津波に対応できるものと考えているが、巨大地震で津波が発生した場合には、本市として、一番に高台への避難を呼びかけることで人命の確保につなげたい。



質問者 龍田 惇議員

### 防災について

**問** 想定津波高2・3mに対する元川、中川の対応能力について伺う。

**答** 河川管理者の国土交通省姫路河川国道事務所を確認したところ、兵庫県が発表した津波のシミュレーションについてはコメントできないが、地震対策については、地盤改良の実施や堤防の耐震点検の結果から、対策の必要性を検討するとの回答であった。

**問** 元川右岸、国土交通省の管轄区域におけるパイピング現象の状況把握と対策について伺う。

**答** 国土交通省姫路河川国道事務所を確認したところ、パイピング現象が発生する恐れを認識しており、苅屋地区及び成山新田地区の区間でドレーン工等の浸水対策を実施予定との回答であった。

**問** 成山新田における液状化現象による堤防沈下に対する状況把握と対策について伺う。

**答** 管理者である兵庫県龍野土木事務所に確認したところ、想定津波高2・3mに対して、防潮堤の護岸高は6・5mと相当の余裕があり、地震動・液状化現象による沈下対策等は考えていないとの回答であった。

**問** 平成25年に実施した元川右岸の測量とボーリング調査後の進捗状況について伺う。

**答** 国土交通省姫路河川国道事務所を確認したところ、苅屋地区及び成山新田地区において、ボーリング調査を実施したところで、現在、堤防の浸水対策について、対策工法を検討し、設計を実施しているとの回答であった。

### 台風、高潮、大雨、洪水対策について

**問** 富島排水機場においては、現在3基のポンプで対応しているが、昨今の異常気象を考慮し、5

基体制にするよう兵庫県へ働きかけてはどうか。

**答** 施設管理者である兵庫県龍野土木事務所に確認したところ、排水機場のポンプはすでに余裕がある施設整備をしているとの回答であったが、100年に一度の洪水にも対応できるように、安心安全のまちづくりの観点からも、本市として、5基体制を要望していきたい。

**問** 苅屋東地区(元川、中川の中州)に排水機場を設置してはどうか。

**答** 最近頻発している大雨時に、元川の水位が高くなり、(株)タキオン南側の民地で敷地内の一部が浸水する状況があり、地元自治会からも排水機場設置の要望があったが、実施には至っていない状況である。この件については、費用が高額なことに加え、大雨時に川からの浸透も影響している可能性が大きいことから、他に有効な手法がないか検討の必要があるものと考えており、引き続き調査・研究をする。